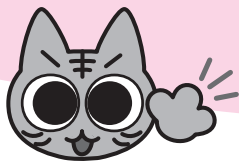


買い物の達人への道

デジタル教材は
こちらからワークシートP6(右下)にも
QRコードを掲載しています。

消費生活キャラクター ニャン吉

教材作成のねらい

本教材は、児童が身の回りの「財(モノ)」や「サービス」にお金を支払っていることに気づき、消費者として、お金の使い方や買い物の仕方について主体的に考えられるようになることをねらいとしています。

ワークでは、買い物での決済手段として、現金と併せてプリペイドカードなどのキャッシュレス決済も取り扱っています。近年、キャッシュレス化が進み、様々な決済手段が児童にとっても身近なものになってきています。

しかし、キャッシュレス決済は、その形態から「お金」としての価値を理解しにくく、使いすぎや子ども同士の「おごり・おごられ」、オンラインゲームでの高額課金など、問題になっているケースも見られます。キャッシュレス決済についても学習することで、現金と同じ役割を果たしていることを理解し、金銭管理能力を身に付けられるようにしています。

教材作成にあたっての留意点

- 〈ワーク1〉では、日常生活を振り返り、各児童が生活とお金との関わりに気づくよう促します。
- 児童が理解しやすいよう、各ワークで使用場面などを想定したイラストを配っています。
- 児童が能動的に学習できるよう、一人で考えたり、発表したり、またグループで討議できるようなワークを取り入れています(「進め方のヒント」参照)。

- 最終ページに〈まとめ〉を設け、学習したことを振り返ることができるようにしています。
 - 主要項目を1時間で扱う場合の展開例を掲載しています。
 - デジタル教材を神奈川県のホームページに掲載しています。
- ※保護者の方へ向けたコラムを掲載しています。保護者の方にご一読いただき、家庭でも振り返りの機会を設けていただくようお願いいたします。

ワーク1

指導のポイント

- 日頃の生活を振り返り、身の回りの「財(モノ)」やサービスにお金がかかっていることに気づかせ、学習の導入とする。
- 収入には限りがあり、支出とのバランスを考える必要性に気づかせる。

進め方のヒント

授業の導入として楽しんで取り組んでもらいたいものです。教室の照明や冷暖房を例に挙げるなどして、さまざまなものにお金を支払っていることへの理解を促すことよいでしょう。

解説

児童が普段の生活の中で、何にお金を払っているか意識して考える機会は多くないでしょう。特に、目に見えない「サービス」はお金を支払っていることに気づきにくいものです。鉛筆などの「財(モノ)」だけでなく、公共交通機関を利用する際やスマートフォンの料金など、いろいろな「サービス」にもお金を支払っていることに気づかせるようにします。

また、家庭では、収入と支出のバランスを考えて、ワークに出てきた「財(モノ)」や、ほかにもさまざまな「サービス」にもお金を支払っていることに気づかせ、限られたお金の中で、よく考えてお金を使う必要があることを理解させることが大切です。

ふり返ってみよう！
買い物するときに考えたいポイント

指導のポイント

- 購入するものをいろいろな視点から見て選択できていたか、自身の買い物を振り返る。
- 自分でよく考えてものを選ぶことや消費者の役割を理解させる。

進め方のヒント

自分がものを選ぶ基準を具体的に考えたり、思い出したりできない児童には、使っている筆記用具などを例に、選んだ際に気をつけたポイントを考えるようにするとよいでしょう。

解説

●必要なモノか

買い物の前、一番初めに考えたい項目です。自分にとって「必要なものなのか、欲しいものなのか」をはじめ、いま必要か、買う以外の手に

入れる方法などを考えます。

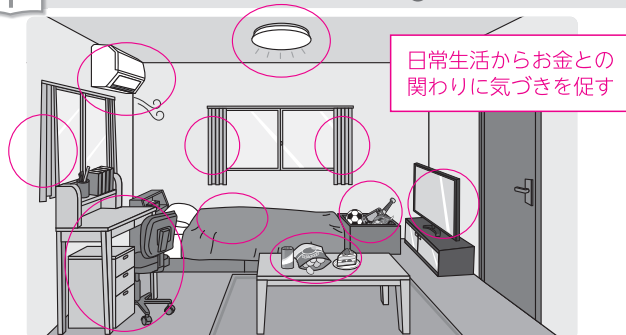
●情報を集める

自分の希望通りのものを手に入れるためには情報収集が欠かせません。予算に合わせて、自分の希望(分量、

回答例P1

ワーク1

部屋の中でお金がかかっていると思うモノに○をしよう。



日常生活からお金との関わり気づきを促す

いろいろなモノやサービスにお金がかかっていますね。「入るお金(収入)」には限りがあるので、何に使うかよく考えて「出ていくお金(支出)」とのバランスを考えることが大切です。

ふり返ってみよう！買い物のときに考えたいポイント

買い物には、たくさんの「考えたいポイント」がかくされています。ふだん買い物で気をつけている項目の□に✓をしましょう。

- ✓必要なモノか
- ✓情報を集める
- ✓環境への影響
- ✓長く使えるか



※将来の世代の人たちも必要なモノが手に入るように、限られた資源の使い方を考えよう！

支出が収入を上回らないように考えなくちゃ

消費生活キャラクター
ニャン吉

機能、デザインなど)を満たすかなど確かめたい項目を考え、家族や友達などから話を聞いたり、チラシやインターネットを活用したり、お店で実際に見るなどして必要な情報を集めて比較します。

●環境への影響

商品の表示やマークで確認するだけでなく、商品の包装や処分方法が容易であるかまで考えられるとよいでしょう。また、マイバッグを持参するなどの対応も環境への配慮に繋がります。

●長く使えるか

素材や手入れにより製品自体が長

持ちすること、年齢を問わず使えるデザインであることなどが目安になるでしょう。消耗品でも交換や詰め替えなどで繰り返し使えるものもあります。

「今」だけでなく、将来も必要なものを必要なときに手に入れられる暮らしを続けられるように、資源の使い方を考えることが私たち消費者に求められています。「環境への影響」と「長く使えるか」などを考えて買い物をすることは、持続可能な社会をつくることにも繋がります。

ワーク2

指導のポイント

- 買い物が「法的な責任が生じる約束」（売買契約）であることや成立する場面を理解させる。
- 契約が成立すると、一方的な都合や理由で契約をなかったことにはできないことを理解させる。

進め方のヒント

契約が成立すると、売る側、買う側の双方に権利と義務が発生することを確認します。
 ロールプレイングを取り入れると、なぜ契約が大切なのか、それぞれの立場から理解しやすくなります。

解説

買う人の申し込みと売る人の承諾が一致したときに売買契約が成立します。これにより、買う人は代金を支払うこと、売る人は商品を引き渡すことが「義務」になります。プリペイドカードなどで購入する場合も、現金と同様です。

お店のサービスなどで返品や交換に応じてくれる場合であっても、売買契約がなくなったわけではないことに注意しましょう。

買い物で困ったことがあったとき

は、周囲の大人に相談するよう促し、消費者トラブル解決を助けるために消費生活センターがあることにも触れるとよいでしょう。

消費生活センターでは、消費者からの相談を受け付け、消費者トラブル解決のため、①自分で解決するための支援（自主交渉の助言）、②事業者との交渉の支援（あっせん）、③弁護士などの適切な機関の紹介（情報提供）をしています。

回答例P2

ワーク2 契約が成立したと思う場面の番号に○をつけよう。



ワーク3

指導のポイント

- 日常生活を振り返り、いろいろな支払い方法があることに気づかせる。
- 「お金（現金）」による購入とプリペイドカードなどの「見えないお金」による購入があることを理解させる。
- 「見えないお金」には、いろいろな形のものがあることを理解させる。
- 「見えないお金」には、「お金」と同じ役割があるということを理解させる。

進め方のヒント

児童の生活経験には差があります。図を見ても理解できなかったり、「見えないお金」「プリペイドカード」という言葉と自分のSuicaやPASMOとが結びつかなかったりすることもあります。実物を用いて、使用場面を実演してみせるなどして理解を促すとよいでしょう。分類はクイズのように楽しんで取り組んでもらうため、分類そのものにこだわらず、「見えないお金」にはいろいろな形があること、それぞれが「お金」と同等の価値があるということが理解できればよいでしょう。

解説

①② IC型プリペイドカード

①はSuicaやPASMOなど交通系IC型プリペイドカードを想定しています。②はnanacoやWAONなど流通系IC型プリペイドカードを指しています。交通系のもは、出かけた時に自分で使用したこと、流

通系のもは、保護者と買い物に行った時に使用するのを目にしたことがあるかもしれません。いずれも端末にタッチして使用します。決済するとポイントが貯まるなどの特典が得られるものが多くあります。

回答例P3

ワーク3 下の①～④の「見えないお金」を分類してみましょう。



番号	見た目	特徴
①②	●カード IC型 プリペイドカード	●事前にお金をカードにチャージ（入金）しておき、支払いの時には端末にタッチして使用する。 ●カードの中にあるICチップに、お金の出入りが記録される。
③	●カードなど サーバ型 プリペイドカード	●識別番号が記入されたカードなどを購入する。 ●識別番号をウェブサイトに入力するなどして使用する。
④	●スマートフォンなど QRコード決済	●事前にお金をチャージしておき、支払いの時にはスマートフォンでQRコードを読み取ったり、スマートフォンに表示されたQRコードを提示して使用する。

※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



③サーバ型プリペイドカード

iTunesカード、LINEプリペイドカード、ニンテンドープリペイドカードといったオンライン決済に使用するサーバ型プリペイドカードを想定しています。サーバ型プリペイドカードは、コンピューター上でお金を管理しています。識別番号を教えることが、お金を渡すことと同じであると認識せずトラブルとなる事例もあることから、購入の際にはおうちの人と相談するよう指導するとよいでしょう。

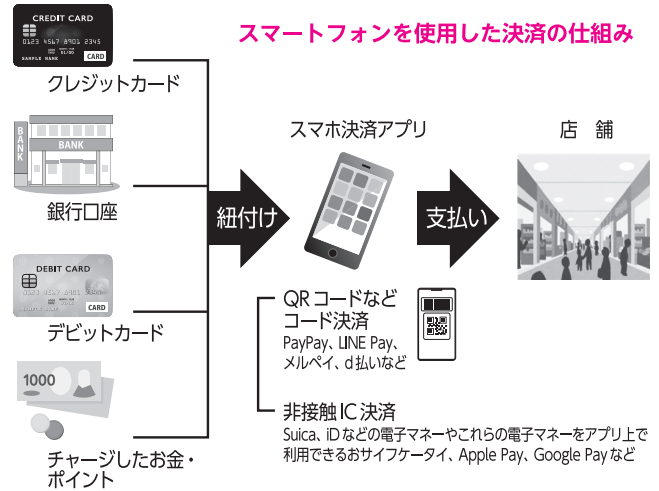
④QRコード決済

QRコード決済には、スマートフォンにコードを表示させて支払う方式と店頭のコードを読み取り金額を入力する方式があります。携帯キャリ

アによるQRコード決済は、銀行口座やコンビニエンスストアからチャージするほかに、電話料金合算払いを利用することも可能であり、その場合、実質的に「後払い」になります。ワークではカードではなくスマートフォンでも前払い方式で支払うこともできる、ということにとどめていますが、保護者会などでは利用方法について家庭で決まりを作るように話しておくともいかもしれません。

スマートフォンを使用した決済には、ほかにNFC（非接触IC）を利用して読み取り機にタッチする方式などもあります。スマートフォン決済の多くは小学生でも利用可能です。

スマートフォンを使用した決済の仕組み



見たことあるかな こんな支払い場面

指導のポイント

- 決済時に利用するいろいろなカードとプリペイドカードとの相違点を理解させる。

進め方のヒント

「ポイントカード」は、持っている児童も多くいることでしょう。ポイントを使って買い物をすると、「お

金」を使っている実感がわかないものです。しかし、ポイントでの購入は、ポイントが「お金」と同じ役割をしていることとなります。ポイントでも、「無駄遣いしない」「おごったり、おごられたりしない」ということを確認しましょう。また、「クレジットカード」での買い物は、借金をしているようなものであることを理解させることが大切です。

解説

●ポイントカード

「ポイントカード」は、氏名、住所などの個人情報を登録して会員になると、提携店で購入する度にその支払額に応じたポイントが貯まり、商品の購入や特典を得ることができるというもの。ポイントカードは無料で発行され（一部有料）、保護者の同意などがあれば年齢制限もないものがほとんどです。

●クレジットカード

「クレジットカード」は、利用者に代わって、クレジット会社が代金を立て替える「後払い方式」です。後日、買い物代金は銀行口座の預金などから支払うことになります。信用がないと持てないカードのため、小学生は持つことができません。また、子どもが親のクレジットカードを使うことは違法行為になります。

どうすればよかった？ 本当にあった「見えないお金」のトラブル例

解説

全国の消費生活センターにスマートフォンやタブレット端末等を使ってインターネットを介して遊ぶ「オンラインゲーム」で、子どもが保護者の許可なく課金をしてしまったという相談が寄せられています。どこがいけなかったのか話し合ってみま

しょう。
また、ゲーム内のアイテム購入などの課金は、お金を使っていることを確認しましょう。おうちの人とオンラインゲームをするとき、特に課金する場合のルールを決めておくようにしましょう。

ワーク4

指導のポイント

- 現金と「見えないお金」には、それぞれ長所・短所があることを理解させる。
- 長所と短所から、利用する際の注意点を考えさせる。

進め方のヒント

長所・短所を挙げていき、その中から現金と「見えないお金」それぞれの注意点が見えてくるようにします。グループごとに話し合い、発表するなどすると、言語活動がより活発になります。

解説

現金は使うと目に見えて減っていきますが、プリペイドカードなどの「見えないお金」は残額が見えません。駅の券売機で印字する、レシートで残額を見るといったことで、利用状況の確認をする必要があります。また、プリペイドカードなどの残

額やポイントは、発行会社の倒産などにより使用できなくなる可能性もあります。利用規約をよく読むということも教えないけません。現金を使うのか、「見えないお金」を使うのか、各家庭で使い方を確認するよう話しておくともよいかもかもしれません。

回答例 P4

ワーク4

「見えるお金（現金）」で支払う場合と「見えないお金」で支払う場合の、それぞれの長所や短所を考えてみよう。



	長所	短所	使う時に気をつけたいこと
見えるお金	<ul style="list-style-type: none"> いくら使ったかわかりやすい いくら残っているかわかりやすい ほとんどのお店で使える 	<ul style="list-style-type: none"> おサイフが重くなる 小銭が増えないようにするためには、計算して出さないといけない おつりを確認する必要がある なくしたら戻ってこない 	<ul style="list-style-type: none"> おつりが合っているか確認する いくら使ったか、いくら残っているかわかるように記録するとよい
見えないお金	<ul style="list-style-type: none"> おサイフが軽くなる 簡単 なくしてもお金が戻ってくるものもある（IC型プリペイドカード・記名の場合など） いつ、何に、いくら使ったか記録が残る ポイントがつく 	<ul style="list-style-type: none"> お金を払っている感覚がない 使いすぎてしまう いくら使ったかわかりにくい 使う前にチャージしなければいけない 使えないお店がある 	<ul style="list-style-type: none"> 記録したり、履歴を見るなどして、いくら使ったか、いくら残っているかわかるようにする 使えるお店が確認しておく 「お金」と同じように大切に扱う



ワーク5

指導のポイント

- 「レシート」に書かれていることを理解する。
- お金を使いすぎないために、「レシート」を用いて、使った金額や残金を管理することを理解する。

進め方のヒント

「商品リスト」「合計」など、項目ごとに色分けをして囲んでもよいでしょう。家から「レシート」を持ってきてもらい、ワークに沿って書かれていることを確認するなどの工夫で、より多様な学び方が可能になります。

解説

レジで会計した際に渡される「レシート」は、お金を払ったことの証拠になるものです。

特に、プリペイドカードなどの「見えないお金」で支払った場合は、自分でお金を払ったり、おつりをもらったりすることがないため、購入金額が正確であるか、残金はいくらかと

いったことは主に「レシート」で確認することになります。現金で購入する場合も、購入金額やおつりの確認は必要です。きちんと「レシート」などで購入の記録を確認する習慣をつけ、書かれている内容を把握し、金銭管理の資料とすることが大切になります。

回答例 P5

ワーク5 レシートを見て、①～⑩の内容が書かれているところを〇で囲み、それぞれの項目の●とつなげよう。

スーパー ニャン吉
〒XXXX-XXXX
〒XXXX-XXXX
電話番号 XXXX-XXXX-XXXX

20XX年9月15日

チョコレート	¥108
キャンディー	¥97
クッキー	¥129
せんべい	¥108
合計	¥442
(内消費税 ¥32)	

Kanaco番号
Kanaco残高 ¥50
多倍ポイント 2P
ポイント残高 103P

- ① お店の名前、住所、電話番号
- ② 買った日付
- ③ 商品リスト
- ④ 合計
- ⑤ 内消費税など（払う税金の金額）
- ⑥ プリペイドカードの番号
- ⑦ プリペイドカードの残高
- ⑧ プリペイドカードのポイント
- ⑨ プリペイドカードのポイント残高



記録して、使い方を振り返ると次の計画にも役立つよ!



ワーク6

上のレシートを見て、お金の出入りを記録しよう。

日にち	なんで(もらった・使った)	入ったお金(収入)	出たお金(支出)	残ったお金
9/10	おこづかい(おやつ用にチャージ)	500円		500円
9/15	チョコレート		108円	392円
9/15	キャンディー		97円	295円
9/15	クッキー		129円	166円
9/15	せんべい		108円	58円
	合計	500円	442円	58円

ワーク6

指導のポイント

- 「レシート」に書いてあることを理解し、金銭管理に役立てられるようにする。
- 記録方法(おこづかい帳のつけ方)を理解する。

進め方のヒント

レシートから、表に記入する項目

と記入しない項目を見分けて書くことは、案外難しいものです。一つ一つ確認して進めましょう。〈ワーク5〉に記されたレシート以外にも、「ラムネ 89円」「ポテトチップス 110円」などと書いたカードを用意し、引いたカードの物を買ったと想定して記入させるなど、ゲーム的な要素を盛り込むと、楽しく学ぶことができます。

解説

記入方法は、現金と「見えないお金」どちらでやり取りした場合も同様に、日にち、なんで(もらった・使った)といった内訳、入ったお金(収入)、出たお金(支出)、残ったお金を書いていきます。レシートには消費税額も別途明記されていますが、表には消費税を含んだ金額のみを書きます。

おこづかい帳として記録を続けていく場合、現金と「見えないお金」の

両方を記録する際は、市販のノートに〈ワーク6〉の要素を自分で記入して表を作り、左ページは現金、右ページは「見えないお金」と分けて管理するとわかりやすくなります。

学習指導要領には、金銭管理の方法(おこづかい帳のつけ方)は含まれていませんが、使ったお金の見える化、特に「見えないお金」を管理するには、有効な方法の一つです。

ワーク7

指導のポイント

- 具体的な場面から、お金の使い方や買い物の仕方を考えさせる。
- 失敗を避けるためにはどのように行動したらよいかを考えさせる。
- いろいろなお金の使い方から、買い物を考える際に考えたいことを学べるようにする。

進め方のヒント

何が失敗であったかを手がかりに回避行動を考えるようにします。それぞれの場面に補足したり、実演したりして、理解を促すとよいでしょう。P1の〈ふり返ってみよう!〉を参照し、気をつけたことや考えたことに着目するようにします。

解説

〈ケース1〉

プリペイドカードなどの「見えないお金」も「お金」であることから友達同士でやり取りしないことを確認します。特に、図書カードのような使用目的が限定されているものは、本人が必要ないと思うと、友達にあげてしまうということも。お金のやり取りは、後々トラブルに発展しがちであることを話し、子ども同士で「お金はあげない、もらわない」また「おごらない、おごってもらわない」というルールを確認しましょう。

〈ケース2〉

プリペイドカードなどの「見えないお金」は残額が見えません。必要な額を事前にチャージするなどの準備が必要になります。交通費用として与えられている交通系IC型プリペイドカードをほかの買い物で使用すると残額不足になることもあるため、おうちの人と使い方の決まりを作るよう話すともよいでしょう。

また、児童が購入できる交通系IC型プリペイドカード（子ども用Suica・PASMO）は、記名式で、

小学校卒業年の3月31日までの有効期限が過ぎると、変更手続きなしでは使用できなくなります。こうした記名式のカードは、紛失した場合、エリア内の主な駅やバス営業所へ申し出ると、カードの停止手配が行われ、停止完了になった時点でのチャージ残額は保証されます（別途、再発行手数料などは必要）。

〈ケース3〉

「最後まで使い切ったこと」、「最後まで使えるものを選んで買ったこと」など、お金を大切にできたこと、環境への配慮ができたことが挙げられます。次に買う鉛筆の選び方を考えたり、自分が使っている筆記用具を選んだ理由を考えたりするものもよいでしょう。

〈ケース4〉

自分のためだけでなく、周囲の人を思いやってお金を使う場面もあることに気づくことができるとよいでしょう。また、事前に必要な情報（記念日や誕生日など）を集め、計画的にお金を使うことが大切であることを理解できるとよいでしょう。

主要事項のみ確認する場合の展開例（45分の場合）

	主な学習活動	指導上の留意点	教材
導入 (5分)	日頃の生活を振り返る。	身近なものやサービスにお金がかかっていることに気づかせ、収支のバランスにふれる。	〈ワーク1〉
展開① (10分)	・契約が成立する場面を確認する。	・買い物が契約であることを理解させる。	〈ワーク2〉
展開② (25分)	・「見えないお金」の分類に取り組む。 ・「現金」「見えないお金」の長所と短所を考え、記入し、発表する。	・「見えないお金」も「現金」と同じ役割があることを理解させる。 ・長所と短所を自由に発言させ、黒板にまとめる。 ・利用する際の注意点を考えさせる。	〈ワーク3〉 〈ワーク4〉
まとめ (5分)	先生の話聞き、まとめを確認する。	本時を振り返り、気をつけたいことを補足する。	〈まとめ〉



回答例P6

ワーク7

下のケース①～④を読んで、お金の使い方について考えて記入しよう。

ケース ①

おじさんから図書カードをもらった。自分は本を読まないのに、友達にあげたら、おうちの人にしかられた。



どうすればよかったかな？

- ・図書カードはお金と同じものなので、友達にあげてはしなかった。
- ・おうちの人に相談して、使い方を考えた方がよかった。

ケース ②

電車に乗ろうとしたら、プリペイドカードの残額が不足していて改札を通ることができなかった。



どうすればよかったかな？

- ・電車に乗るためにチャージしたプリペイドカードで、ほかのものを買わないようにする。
- ・チャージがなくなる前におうちの人に相談してチャージしておけばよかった。

ケース ③

自分で選んで買ったえんぴつを最後まで使い切ることができた。



どう感じたかな？なぜそう思ったのかな？

- ・長く使えるえんぴつを選ぶことができてよかった。
- ・大切なお金で買ったものだから、最後まで使うことができてよかった。
- ・資源を大切に使うことができてよかった。

ケース ④

おごつかいをためて、おじさんとおばあさんにお祝いのお花をプレゼントしたら、とても喜んでくれた。



なぜ喜んでくれたのかな？

- ・祖父母のことを考えて選んだから。
- ・お祝いの気持ちが伝わったから。
- ・ほしいものをがまんして貯金したお金で買ったから。

まとめ

進め方のヒント

〈ワーク1〉から〈ワーク7〉を通して学んだことを振り返ることができません。宿題にしてもよいでしょう。

いろいろな決済方法と小学生

県内の多くの児童はSuicaやPASMOなど交通系のIC型プリペイドカードを持っており、こうした決済手段をコンビニエンスストアなどで使う機会も増えてきています。プリペイドカードで気軽に決済することに慣れ、「見えないお金」の管理ができないまま18歳で成人を迎え、クレジットカードを連携させて使うようになると、借金を膨らませることにもなりかねません。特にオートチャージ（チャージの残高が一定金額を下回ると自動的にクレジットカードからチャージされる仕組み）などに設定した場合、クレジットカードの利用額を自覚せずに、お金を使い続けてしまうことがあります。

また近年、スマートフォンにインストールした専用アプリを使った「スマホ決済」も普及してきました。スマホ決済アプリを利用している場合には、スマホの紛失・盗難、パスワードの設定などのセキュリティに十分に注意する必要があります。

加えて、QRコードなどを利用したコード決済や通信販売などの決済時に、「電話料金合算払い・キャリア決済」（※1）を利用すると、小学生でも「後払い」が可能である点にも注意が必要です。携帯料金は保護者がまとめて払うことが多く、気づくのが遅れる傾向にあります。インターネットを利用すると答えた10歳以上の小学生（96%）のうち、自分専用のスマートフォンを持っている児童は63.3%（※2）にも上っています。保護者と連携し、見えないお金の「やりくり」をしっかり学ばせることが大切です。

※1 携帯電話料金と一緒に、商品やサービスの代金を支払う方法。キャリアによって異なるが、一般的に年齢ごとに限度額が設定されている。

※2 「令和3年度 青少年のインターネット利用環境実態調査 調査結果（概要）」令和4年3月、内閣府

* 「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

